

2050年の京都のコミュニティの理想像を語ろう

(こんなコミュニティだったら入りたい(つくってみたい)、

こんな形でコミュニティの課題を解決したいなど)

| 投稿内容

1. 商店や企業が、道路に面した間口の5%を地域とつなげるために使ってもらえるといいな。花や木を置く、ベンチを置く…企業によっては授乳室やまちライブラリーだって設置できるかも。コミュニティが大切にされ、一人ひとりが大切にされるまちになるといいな。
2. やりとりのテンポがちょうどいいコミュニティがいいと思います。LINEやDiscordなどでオンラインで常時情報が飛び交っているのもあれば、1か月に1回リアルだけのんびりもあり、参加者が主体的に無理のない頻度で参加できるコミュニティは長く続けていけるのではないかと考えます。
3. 町内に移り住んできた人を歓迎する、ちょっとしたパーティーが日々あちらこちらで行われていたらいいな。それを機にご近所さんと顔の見える関係になって、支え合えるようになるかもしれない。日本で一番人懐っこくてあたたかい、他都市からも転入したくなるようなまちになれるといいな。
4. 神戸市のデザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITOのような、まちづくりの核となるセンターがあってもいいかも。そのセンターを市役所本館に設け、「まちづくりは京都市の1丁目1番地」とアピールしつつ、まちづくり活動者が市役所前広場と共にフル活用する…そんな近未来を夢見ています！
5. この「みんなの理想京」の取組も、コミュニティ作りの実践としてとてもいいなと思いました。京都を良くしたいと思っている人たちの意見やアイデアが見えて、似た考えの人が沢山いることを知れて心強く感じました。パブコメとかも全部このスタイルでやったらいいのに。
6. JR 焼津駅の近くで始まった「みん図書」という私設図書館の取組がとても興味深いです。地域の人が自分の好きな本やお薦めの本を並べていて、場所の管理も有志のメンバーでやっていて、近所の人が気軽に集まる場所になっているようです。地域にこんな場所が沢山あったら、孤立する人もいなくなりそう。

7. 集合住宅の1階は空室になりやすいという。ならいっそこを住人に開放して、出入自由の「部室的な場所」にしてはどうか。漫画とか置いたりして。その内、自然にご近所コミュニティが出来上がりそう。都会に暮らしていると、ふらっと行ける場所って意外と少なく、それが人々の孤立の原因なのではないか
8. 鴨川の近くでテントやキャンプ椅子を借りられる場所があれば、もっと鴨川が最高になると思います。北大路鴨川の「WIFE&HUSBAND」というコーヒー屋さんが似たようなサービスを提供していていい感じです。もっと拡がってほしい！
9. 賀茂川や堀川沿いとか大通り(例えば、車通れないエリアをつくる)で、色んなお店が出店されるマルシェがまちの至るところで開かれていて、たくさんベンチ(座れるスペース)と薪ストーブのような集まれるスペースがたくさんあると多様なコミュニティができると思います
10. 温暖化にゴミ回収方法や分別を減らすものしてのあり方と場所や取り扱われる処理場の負担軽減、例えば化石燃料に頼らずにバクテリアによる分解する様な処理が要ると感じた。耐震や被災にプラスに高い建物によって階段の高さや避難の為難さの上に逃げられる守れる施設が少なく困る。
11. 自治会長経験者です。地域コミュニティの最大の課題は、地域の新たな関係性をどう構築するかです。NPOやボランティア、社会的企業、学生など多様化するアソシエーションと地縁型(自治会・町内会など)が緩やかに連帯し、信頼、規範、相互扶助による新たな地域を構築したい。
12. 自分たちの行きたくなるお店や居心地の良い場所がまちが増えていくように、公共空間(道路や公園)を使って、自分たちの居場所をまちに作っていくコミュニティーをつくりたい。マルシェやパークレットなど未来の暮らしに必要な空間やお店は何なのか?実験をしながらみんなで理想のまちを作っていこう!
13. 暮らしに必要な衣食住に関わるモノを地域の人たちと作ったりできるコミュニティを作りたい。できれば地域に継承されている知恵や資源を使いながら、地域で経済が循環するように、近郊の自然のフィールドの人たちとも連携して、自然環境を生かした都市部での暮らしがしたい。
14. 健康は医療が作るものではなく、コミュニティで支え合うもの。生活習慣の関わる病気を個人の責任にせず、お互いを思いやり自然に健康になれる環境を産学官民みんなで作り上げていく。
15. 美しい水、安定した水量、災害に強い京都。橋、河川、道路、耐震のライフライン。

16. 区役所は地域コンシェルジュとなり、支援を必要な人の手助けをする組織となり、その支援内容を発信する その支援が出来る人が区役所にその情報を見て集う 支援=援助ではなく、自立に向けての手助けやデジタル化から取り残される人たちの支援やつなぐ架け橋となる
17. 赤ちゃんからお年寄りまで、障害のある人もない人も、国籍も関係なく、その人が“そのひとらしく”いることができ、かつ“ともにいる”と感じられる、ごちゃ混ぜでいい感じの居場所をつくりたい！
18. 海外からの観光客が京都の文化だけじゃなく、福祉や教育にも触れる観光のあり方が実現するようなコミュニティをつくりたい！
19. 高齢者から赤ちゃんまで全ての世代の人たち、外国人、障がい者、他地域から来た人含め、全ての人を排除せず、全ての人が幸せになる、この地域に来てよかったと思えるようなコミュニティをいつかつくりたい
20. 廃校になった学校跡地をホテルにするのではなく、地域コミュニティの拠点にしてほしい
21. 少子化の原因は金銭問題ではなく、未婚率の増加であることがデータによって明らかにされている。自由恋愛の時代、理想の人と出会うきっかけが減少した。若者が自発的に参加したいコミュニティを作れば、出会いの機会が増え、未婚率改善や少子化対策に繋がる可能性がある。期待しています。※リンクあり
22. 地域の現場では、今も本当に温かいつながりが、長い月日の努力で、維持されています。その風景を行政職員が知る、体感することが、分断のない地域につながります。そのために、現場に出向くことができる体制、職員増を目指してください。
23. 地域活動の役員の若返りが必要。現役世代でも無理なく地域活動に参加できるように。行政も自治連会長に伝えれば合意形成が出来たという考え方を変えるべき。継承すべき行事等も、方法を変えれば続けることが可能だと思います。
24. 登録した空き家を公共財産にする制度をつくって、地域住民が空き家をコミュニティの拠点として活用出来ていたらいいな。 そうした、まちの中に余白をつくることで、従来の元学区や町内会の住民自治活動の活性化はもとより、多世代交流や市民活動が生まれやすい風土になるといいな。
25. 大学が学生・市民・企業共同ラボになっていて、くらしの中から社会課題解決やイノベーションが生まれている。 京都にくらす学生・市民・企業が同じテーブルについて、顔の見える関係になって、打ち解けあえるコミュニティになっていたらいいな。

26. 子供たちが考えるアイデアや意見を、投票から選び、一つ二つを本気で大人たちがプロジェクトチームをつくり予算をつけて実現に向かって動いてやり切るコミュニティ。ビジネススキルや経験を未来の当たり前をつくるため使ってみるのは面白そう。
27. [グッドカスタマーの町京都]へ。町の中で暮らす人、関わる人と、金銭を通じたやり取りのみではなく、人としての関わりを感じあえる関係性を養いたい。そのためにはコミュニティのベースが商業以外で必要だと感じる。良きカスタマーであろう、の旗振りがコミュニティ起点でできるのでは。
28. 多様なステークホルダーが、京都の未来のために創設された番組小学校の現代版の仕組みを作りたい。コミュニティナースのような情報収集と課題解決のためのネットワーク作りを行う場所として、小学校を拠点化する。そこで、地縁と志縁団体等を混ぜ、人的リソースを再分配し、地域の担い手不足解消に。
29. 京都には多くの国籍の子供がいて言語の壁もあるため、子どもの言語の壁を解決するためのコミュニティを作りたい。そこから、大人に対しても国籍の壁を越えるような動きに波及させたい。京都では観光公害が課題だが、多くの人が訪れるというのは資産。資産を生かせるまちづくりを考えていけたら理想。
30. 若い人の声たくさん聞きたい。 タウンミーティングいいです。 京都大好きです。
31. コミュニティで巻き込むべき人たちはどこまで含まれるべき？ コミュニティが狭い人もまた居て良いと思える社会はどう作れるか？ 今日のパネラーはコミュニティを広げることが好きで出来る人たちが描いてる世界。そうじゃないひとのことをどう想像し、巻き込んでいくか
32. 子どもの心に戻っての素直な思考と行動から笑顔の溢れる状況が生まれると思います。先ず行政が 大人の頭脳的思考だけで動かない仕組みを取り組んでもらい、大きな岩盤にどんどん穴を沢山あけてもらい、潰して、新しい 大宅（公）を新たに創る機会が生まれるように願います
33. コミュニティーナースが地域で得た市民のニーズなどをデータ化して行政や民間企業に渡していくことは可能なのか？ 似たような方法だと、人類学的手法による抽出し、課題の解決を考えていく街とかは面白そう。（倫理審査が大きな課題となるとは思うが）
34. お金を介さない関係性が築けているコミュニティ。「お金がないと生きていけない」という思い込みを外して、ここがあるから大丈夫！とみんなが安心できるコミュニティ。
35. 行政や企業、市民といった垣根を越えて、境界線を取っ払って、シームレスな関係のあるコミュニティ

36. 京都は他地域に比べてコミュニティが機能しているというのはその通りだと思う一方で、京都でもかなり脆くなっていると感じている。今日の議論はその土台となるコミュニティの力が前提になると思うので、コミュニティの力を戻すために何をするか？ どうしていくか？を考えていく必要があるのではないかな？
37. フランチャイズのような生産者の顔が見えない商品などより、生産者の顔が見える商品を買う人が多い社会。人や環境に配慮したものやサービスを選びやすい社会。
38. 優秀な学生が京都で働きたいと思える切磋琢磨できるコミュニティ
39. お互い誰なのか、どこに所属してるか、肩書きがあるのかないのか、情熱があるのか、何も関係なく許される状態の人たちがいると嬉しいです。
40. コミュニティの押し付けにならないコミュニティ。サービスの提供側と需要側が、多重なネットワークの中にバランスしていること。
41. 職人や「技」を持つ人が多く、それらの技に惚れた人々が集まる粋な街京都。長く続いてきた街だからこそ現代の資本主義等からの揺り戻しに対する答えが導き出せるはず！
42. 他地域から京都に来た人も入りやすい仕組み・空気感のあるコミュニティ
43. 職務上学生さんと触れ合う機会が多いのですが、学生さんから学ぶことがたくさんあります。今は、学生と社会人という区別があるように感じます。そんな立場関係なく意見交換し合えるコミュニティを作りたいです。新卒採用という概念ではなく、いつでも学校に通いながらでも採用できるみたいな。
44. ゆるく繋がるコミュニティ 出入りも自由、気負わず自分らしくいられる、1人が好きだけど人との繋がりも無くしたくない人のコミュニティ
45. 人が多く集まりやすい場所に HUB をたくさん作り、気軽に人と繋がれる空間を作っておく。駅とか商業施設などにつくることで、その地域に対する思いなども自然と共感できる。
46. 出入り自由のコミュニティ(祇園祭のお手伝いをしたいけど、参加すると毎年参加しないといけなくなりそう)
47. 世界観が共有される集団、違っても、攻撃や非難されない多様な価値観を受容する集団、違うものが統合されるわけではなく、と言って無関係なのでもなく、独立でありながら全体としては複合体となって動的平衡がなされる曼荼羅的な人の集合が理想的と思います

48. 夢があることも、夢がないことも、どちらも堂々と語れるまち
49. 企業で働く人、商いしている人、学生、行政など、多様な人がお互いの営みを応援し合える関係性になっているコミュニティ。
50. 関心でつながる出入自由でゆるやかなコミュニティ 広がりがあってオープン 安心感
51. 死ぬまで仲良く過ごせるコミュニティ。最初は仲良くてもどこかでお別れすることが多々あるので最後まで仲良く過ごせたら理想です。
52. 危険な放置家屋や迷惑な民泊をコミュニティだけでは解決できない。行政の規制や執行権をコミュニティで担えることができたらいいと思う
53. 素敵なお話しありがとうございました。自分が情熱を持ってやりたいことを声にする。それを批判するのではなく、応援する、推し合える関係性を作ることでよりよいコミュニティになるのではないかと思いました。東京から来た矢田明子推し活者より
54. 京都は個人が生き生きとした人たちのコミュニティが割と多くあるので、こぼれてしまうものを拾い上げるような静かなコミュニティをつくれなにか
55. 小さな安心できるコミュニティが同時多発している社会。同じように見えて、あちらには行けるけどこちらには行けない、ということがあるので、「誰もがどこかには必ずつながっている」状況になってほしい。
56. 市電で何処でも行ける街。ベットタウンも楽々通勤できる、郊外のコミュニティが理想です。
57. たとえ寝たきりになっても若者の活動に参加できたらいいな
58. 観光地とコミュニティスペース、カフェが融合したスペース。そこには京都ならではの物産、人、そして食事があり、地元の人、ワーケーション、旅行客が交わるようなスペースで、地域の課題がその地域で色んな人によって前に進めていけるコミュニティ。地元の方は格安にするとか。
59. 現在はお年寄り、子育て世代など、似た世代同士のコミュニティのための拠点多すぎる。神奈川の春日台センターセンターのような、高齢者の住まいや通いのデイサービス拠点、障がいのある人や出所者の働く場、言語の壁で教育格差を抱える子供の通う寺子屋など多様に交流できる場を増やしたい。

60. お互いを助け合えるコミュニティ！ 2050年の時代を考えたときに各個人が行政から助けられている状況は限界が来ると感じる。ある一定のルールに基づいた支援では抜け落ちる人もいっぱい出ると思う。身近な人がお互いを助け合えるコミュニティが存在してそこに対して支援がなされる状態！

61. こだわりの詰まったまち。小さなコミュニティ、小さなお商売、小さな価値観を大事にしつつも、それぞれが持続可能である絶妙なバランスを保てる、21世紀の都市モデルとして売り出すのがいいのでは。

62. 「オープンだけど、クローズド。クローズドだけどオープン。」なコミュニティを目指したい！矛盾を同居させる。謎に包まれてて魅力的、かといって閉鎖的で怪しくはない。“一元さんお断り”まではいかないが、目利きを通じた紹介制など、京都の“奥ゆかしさ”は残したい。その基盤にあるのは「信頼」。

63. コミュニティメンバーの特性ややりたいことに共感し合えていて、応援し合えるような関係性を築ける居場所。メンバーがやりたいことをみんなに伝えられる安全安心な場で、メンバーのやりたいことをサポート、協働しながら、やりたいことを実現しつつ、結果的に課題解決にもつながっていたという状態。

64. 「しなければならない」ではなく、「やりたい」「やってみよう」があふれるコミュニティ。誰かの責任を問うのではなく、失敗を許容できる優しさが欲しい。